平成５年度版

三重県こころの健康センター所報

（精神保健センター）

三重県こころの健康センター

はじめに

平成5年度のセンター活動を所報としてまとめましたので、お届けします。

センターの各事業については、毎年多くの機関、多くの有志の皆様から多大なご協力を賜っております。振り返ってみますと、平成5年度も例外ではなく、幾多の有形無形のご支援をいただきました。改めてこのことを肝に銘じるとともに、この場をかりて御礼申し上げたいと思います。

さて、平成5年から6年にかけて、地域精神保健に関係する法律の整備が続きました。精神保健法の見直し改正、障害者基本法の制定、地域保健法の成立がそれです。

精神障害者の地域リハビリテーションに一層の道が拓かれると同時に、地域保健の領域でのリストラが提唱されたと見るべきでしょう。

また三重県でも、「三重県における精神保健医療体制のあり方」について、県精神保健審議会の答申が出されました。

そこでも「入院中心から地域ケアへ」という大きな流れを踏まえて、県立高茶屋病院の整備再編、こころの健康センターや保健所の機能強化や県下の地域リハビリテーション対策の推進等が提言されています。

精神障害者をめぐる保健・医療・福祉もその姿を変えつつあるのではないでしょうか。

ここ数年の県下の動きを見ましても、地域家族会を中心とする小規模作業所の増加、病院家族会の新しい誕生、社会復帰施設やグループ・ホームの開設、保健所デイケアの増加等、県下の精神保健活動も次第に充実してきております。

精神保健ボランティアの誕生とその活躍や、各地域で取り組まれるようになった精神保健に関する連絡会も、特筆すべき活動でしょう。

我々のセンターもこのような新しい状況に柔軟に対応すべく、あるべきセンターの姿を模索していきたいと考えておりますので、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成6年夏

三重県こころの健康センター
所長　原田雅典

目　　次

はじめに

Ⅰ．こころの健康センター概要 …… 1

1．沿　革 …… 1

2．業　務 …… 1

3．施設の概要 …… 2

4．組織及び職員 …… 3

Ⅱ．こころの健康センターの活動 …… 5

1．技術指導援助 …… 5

2．教育研修 …… 9

3．広報啓発 …… 17

4．調査研究 …… 23

5．協力組織の育成 …… 29

6．心の健康づくり推進 …… 35

7．精神保健相談 …… 45

Ⅲ．こころの健康センター図書目録 …… 53

Ⅰ．こころの健康センター概要

1．沿　　革

2．業　　務

3．施設の概要

4．組織及び職員

1．沿　革

○　昭和61年５月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第７条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟１階（津市桜橋３丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長　原田雅典氏就任。

精神科医師１名、看護婦１名、保健婦１名、事務職１名、計４名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）２名配置される。

○　昭和62年４月

精神科ソーシャル・ワーカー（ＰＳＷ）が初めて配置される。

○　昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同１階に移転する。

○　平成元年４月

県の出先機関として独立

心理技術者（ＣＰ）が初めて配置される。

○　平成６年４月　精神科医師１名増員。

2．業　務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年３月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1)　技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

(2)　教　育　研　修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

(3)　広　報　啓　発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

(4)　調　査　研　究

地域精神保健活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備する。

(5)　協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地

域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

(6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

(7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

3．施設の概要

(1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446－34　三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501－1　三重県久居庁舎1階

(2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎津保健所棟1階　　1室　52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア　敷地面積（久居庁舎）　11,617.29㎡

イ　建物面積（本館棟）　延床面積　5,484.50

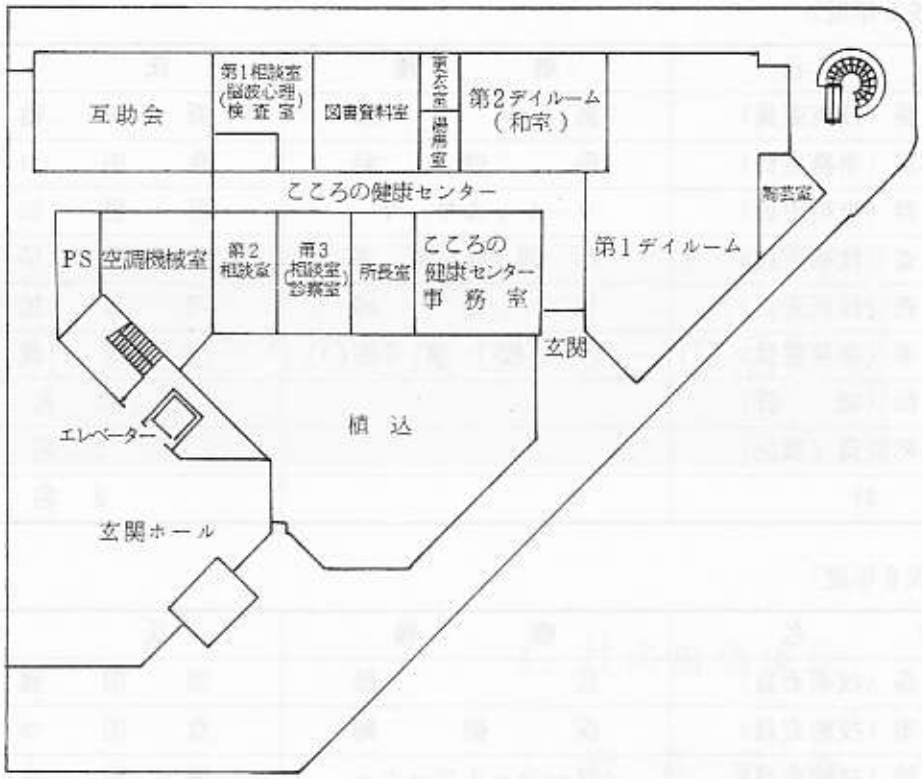
ウ　建物構造（本館棟）　鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ　当センター占有面積　723.0

オ　各室面積

事務室（電話相談室、所長室）	65.2	第1デイルーム	140.4
第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8	第2デイルーム（和室）	44.8
第2相談室	23.9	陶芸室	11.3
第3相談室（診察室）	26.5	更衣室、湯沸室	12.0
図書資料室	37.0	各室面積　計	391.9

三重県こころの健康センター平面図



4．組織及び職員

所掌事務

- 所　長
  - 事務部門
    - 庶務一般
    - 職員の服務
  - 業務部門
    - 技術指導援助
    - 教育研修
    - 広報啓発
    - 調査研究
    - 協力組織の育成
    - 心の健康づくり推進
    - 精神保健相談

職員構成

〔平成5年度〕

職　　名	職　　種	氏　　名
所　長（技術吏員）	医　　師	原　田　雅　典
副参事（事務吏員）	保　健　婦	倉　田　つ や 子
主　幹（技術吏員）	ソーシャルワーカー	野　里　知　巳
主　査（技術吏員）	心 理 技 術 者	久　保　早 百 合
主　査（技術吏員）	保　健　婦	河　合　加 代 子
主　事（事務吏員）	一　般　事　務	小　堀　義　明
医　師（嘱　託）		1　名
電話相談員（嘱託）		2　名
計		9　名

〔平成6年度〕

職　　名	職　　種	氏　　名
所　長（技術吏員）	医　　師	原　田　雅　典
副参事（技術吏員）	保　健　婦	倉　田　つ や 子
主　幹（技術吏員）	ソーシャルワーカー	堀　田　重　行
主　幹（技術吏員）	医　　師	松　崎　ま　み
主　査（技術吏員）	心 理 技 術 者	久　保　早 百 合
主　査（技術吏員）	保　健　婦	橋　倉　英 津 子
主　事（事務吏員）	一　般　事　務	小　堀　義　明
電話相談員（嘱託）		2　名
計		9　名

Ⅱ．こころの健康センターの活動

1．技術指導援助

2．教　育　研　修

3．広　告　啓　発

4．調　査　研　究

5．協力組織の育成

6．心の健康づくり推進

7．精神保健相談

1. 技術指導援助

地域精神保健活動の推進を図るために、保健所ならびに関係機関に対し、事例検討会、社会復帰相談指導事業へのコンサルテーション等技術指導援助を実施している。

平成５年度の技術指導援助は、696回であった。指導回数は年々増加しており、平成元年度の2.7倍となっている。

このうち、保健所に対する技術指導援助は、全体の30％を占めており、指導回数は203回であり昨年よりやや増加しているものの、経年的にみると横ばい状態といえる。保健所での事例検討会については43例が検討され、各々の事例について検討後六カ月毎に事後報告書の提出を求めている。

また、関係機関に対しては、その要請に応じて、研修会での講義・講演・ケースコンサルテーションを行っている。平成４年度の439回に比べると、平成５年度は493回と１割以上の増加があった。本年度から、三重大学医学部学生および県立看護短大地域看護学専攻生の精神保健活動の実習の場となるなど、関係機関からの技術指導援助に対する要請は、益々増加している。

表１　平成５年度　保健所への技術指導援助実施状況

保健所	実施回数	参加対象者延数	技術指導援助回数						指導内訳		
			医師（A）	保健婦（A）	ソーシャルワーカー	心理技術者	保健婦（B）	医師（B）	事例検討会	デイケア	その他
	回	名	回	回	回	回	回	回	回	回	回
桑名	15	22	4	2	1	6	2	−	2	3	10
四日市	22	150	6	4	4	6	4	3	5	4	13
鈴鹿	17	163	2	3	3	3	3	2	2	7	8
津	30	89	4	4	3	10	8	6	4	1	25
久居	17	68	3	4	1	4	3	4	2	−	15
松阪	26	155	2	3	13	4	7	1	−	2	24
伊勢	12	75	1	1	5	3	4	2	2	2	8
志摩	15	74	6	3	−	6	3	−	2	−	13
上野	26	183	4	1	5	11	7	2	8	1	17
尾鷲	17	145	1	2	4	2	6	−	4	3	10
熊野	6	48	1	2	−	4	1	−	4	−	2
合計	203	1,272	20	29	39	59	48	20	35	23	145

表2　平成5年度保健所の事例検討会における検討事例

保健所名	実施月日	事　　例
桑　　名	5．10．20	うつ病とアルコール依存症をもつ女性へのかかわり
	5．12．21	地域から敬遠される精神分裂病患者の支援について
四　日　市	5．5．25	継続受診ができないケースにかかわって
	5．7．27	母親との共生関係の強いケースにかかわって
	5．9．28	多問題をかかえたケースおよび家族への支援をめぐって
	5．12．14	他人との接触が持てないK夫
	6．1．25	激しい妄想のため援助者を困らせるケース
鈴　　鹿	5．5．21	育児不安を訴える母親に対する精神科受診への導入について
	5．8．10	不登校児と児をとりまく家族にかかわって
津	5．6．22	本人および家族が病識のない精神分裂病の一事例
	5．8．3	兄妹が精神分裂病の家族にかかわって
	5．12．14	未受診が続く精神分裂病ケースへのかかわり
	6．2．1	兄妹が精神分裂病の家族にかかわって
久　　居	5．6．7	隣人とのトラブルがたえないケースとかかわって
	6．1．28	息子の強迫神経症で悩む父親とかかわって
伊　　勢	5．7．7	病気を口実に行動がとれないケースの支援
	5．9．28	服薬が続かず不安定になりがちなケースへの支援
	5．12．21	視力障害を伴い長期入院を経験するケースの支援について
志　　摩	5．7．6	地域の支えが少なく治療中断の起こりやすい単身のケース
	6．1．14	母子共に自律できずお互いのかかわりで不安になるケース
	6．2．8	地域の受け入れが難しい単身精神障害者へのかかわり
上　　野	5．6．30	就労をあせり作業所へ相談に行ったケースとのかかわり
	〃	マナーを守りにくいディケア・ケースの支援について
	〃	作業所職員とトラブルのあったケース
	5．7．21	家族から疎外されているケースとのかかわり

保健所名	実施月日	事　　例
上　　野	5．9．29	慢性に経過している精神障害者の社会復帰にかかわって
	5．11．5	慢性に経過している精神障害者の生活支援にかかわって
	5．12．1	発病して20年、保健婦がかかわって5年目のケースとのかかわり
	6．1．19	思春期に発病したケースの生活支援をめざして
	6．3．2	関係妄想のあるケースへの援助
尾　　鷲	5．5．18	地域内で孤立している精神障害者の支援について
	5．7．20	就労をあせるケースへのかかわり
	〃	ディケア参加、作業所での通所に至ったケースの今後の支援について
	5．10．19	アルコール依存症とその母親へのかかわり
	6．3．15	分裂病患者の就労への支援
熊　　野	5．6．1	病弱な両親と暮らす酒癖の悪い男性に対しての家庭訪問の要否について
	〃	家族の受け入れが悪い精神分裂病患者の退院後の生活環境整備について
	5．8．27	在宅の精神分裂病のケースへのかかわり
	〃	服薬が途絶えがちな精神分裂病患者について
	5．11．25	定住できない単身の精神分裂病患者への支援
	〃	三つの問題をもち悩む精神分裂病のケースへの支援
	6．2．18	いくつかの疾患をもつ病弱な一人暮らしの女性について
	〃	二人の児童を抱えた母子世帯への支援

表3　平成5年度　関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	職種別援助回数				援助内容		参加人員
		医師（2名）	ソーシャルワーカー（1名）	保健婦（2名）	心理技術者（1名）	ケース援助	職員精神保健指導	
福祉機関	67	15	4	11	39	34	33	543
医療機関	107	69	10	7	24	70	37	259
行政機関	113	62	15	16	28	5	108	372
教育機関	69	34	4	3	29	24	45	1,365
市町村	21	2	1	9	9	5	16	64
労働機関	38	21	3	4	10	29	9	110
司法機関	2	1	—	1	—	—	2	2
精神保健団体	23	8	3	12	4	8	15	265
学生教育実習	31	27	3	2	2	—	31	1,268
その他	22	2	2	13	7	7	15	198
合計	493	241	45	78	152	182	311	4,446

2．教　育　研　修

(1) 研　修　会

(2) 学生の教育実習等

昭和61年5月に当センターが開設されて以来、主に保健衛生関係機関の職員を中心に時宜に即したテーマを選び研修を実施して来た。開設以来、県の保健予防課分室の三年を経て平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし、三重県に於ける精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から、昨年度までの三本柱の研修から、ライフサイクルに添った形での研修を加え七本柱とし、更に地域で実施される社会復帰指導相談事業の中の一つデイ・ケアを担当する指導者を養成する社会復帰指導者研修会を加え、計八本の柱とした。福祉、教育、医療、労働、司法等とし、精神保健の推進のため関連ある機関との連携も教育研修を機として深めたいと願っている。又、センターの整備に伴い見学、実習等も増加し、その実施状況は表1の通りである。

又、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

平成5年度　教育研修実施実績

(1) 研修会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健担当者研修会	平成5年5月13日	市町村福祉・保健衛生、県福祉事務所、保健所の関係者	32名
精神保健事例検討会	平成5年9月9日	教育関係者	22
児童（青年）精神保健研修会	平成5年8月25日	福祉、教育、医療、保健衛生精神保健団体、その他の関係者	134
酒害保健研修会	平成5年9月17日	福祉、医療、労働、保健衛生精神保健団体、その他の関係者	117
地域精神保健研修会	平成6年2月9日	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	165
精神保健専門講座（精神保健相談員継続研修会）	平成5年7月22日 23日 27日 28日	市町村、保健、福祉関係者、県福祉事務所、保健関係者	87
老人精神保健研修会	平成5年11月29日 30日	福祉、医療、保健、老人施設、その他の関係者	196
社会復帰指導者研修会	平成5年9月～ 平成6年3月 月曜日　年　22回	保健所精神保健担当者	86

計　35回　　850名

(2) 学生の教育実習等

受講者名	実施回数	受講者数
三重大学精神神経科新入局員	1 回	15 名
三重県立看護短期大学1年生・専攻科地域看護学専攻生	24	1，143
三重大学医学部専門課程2回生・4回生	4	108
川崎医療福祉大学生	1	1
聖路加看護大学生	1	1

計 31回 1，268名

（ア）新任精神保健担当研修会

精神保健についての概要を理解し、地域に於ける精神保健活動の推進を図る。

日程	内容
平成5年5月13日（木） 10：00～16：30	Ⅰ．こころの健康センター事業概要 センター主幹　野里知巳 Ⅱ．講義 ① 精神保健のあらまし センター所長　原田雅典 ② 精神保健相談のすすめ方 センター主査　久保早百合 ③ 精神障害者の就労 三重障害者職業センターカウンセラー　宮崎　潔 ④ 地域における精神保健活動 センター副参事　倉田つや子

（イ）精神保健事例検討会

不登校の事例を通して現代の中、高校生のもつ心の問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考える。

日　　程	内　　容
平成5年9月9日（木） 13：30～16：30	事例名 「不安神経症と不登校」 事例提供者 県立四日市西高等学校　　千　種　由紀子 助言者 宝積クリニック院長　　宝　積　己矩子

（ウ）児童（青年）精神保健研修会

講義、事例検討等をとおして今、子どもの中に起っているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力等の問題や「性」について考え、今後のあり方について検討する。

日　　程	内　　容
平成5年8月25日（水） 13：30～15：30	講　義 「こんにちの思春期における「性」」 講　演 名古屋大学医学部精神科　　杉　山　登志郎

（エ）酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐に亘り多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症の予防と早期治療をめざして、依存症者とその家族を支援していくうえでの方策を考えることを目的とした。

日　　程	内　　容
平成5年9月17日（金） 10：00～14：00	講　演 「アルコール問題の現状と課題」 国立療養所久里浜病院名誉院長　　河　野　裕　明 シンポジューム 「アルコール依存症の早期治療をめざして」 司　会 三重県こころの健康センター所長　　原　田　雅　典

	シンポジスト 県立高茶屋病院　医長　猪野亜朗 久居保健所　保健指導課長　鈴木励子 富士電機ＫＫ三重事業所健康管理センター 保健婦　河南文子 中日新聞本社生活部　記者　安藤明夫 県立一志病院　内科医長　遠藤太久郎

（オ）地域精神保健研修会

高齢化社会が急激に進行している現在、在宅での長期的なケアを必要とする高齢者の増加が予測されている。

一方、高齢者世帯の増加、女性就業者の増加等により家庭での介護力が低下しつつある状況の中で、住民が住み慣れた家庭や地域社会で療養できるよう、地域における保健医療サービス等の拡充が望まれている。

対象者のニーズを的確にとらえ、個々のニーズにあった適切な援助活動が実践できるよう、家族への支援を中心に在宅援助のあり方を考える。

日　程	内　容
平成６年２月９日（水） 13：30～15：30	講　演 「在宅援助－家族関係を中心に－」 講　師 日本医科大学付属第二病院 リハビリテーションセンター部長　竹内孝仁

（カ）精神保健専門講座（精神保健相談員継続研修会）

精神保健相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健活動の推進に寄与することを目的とする。

日　程	内　容	
	10：00～12：00	13：00～16：00
7月22日（木）	家庭裁判所からみた最近の家族問題 津家庭裁判所 主任家庭裁判所調査官 黒川忠夫	精神障害者の職業リハビリテーション 三重県障害者職業センター 主任カウンセラー 小林　寛

7月23日（金）	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科 教授　増　野　　肇	
7月27日（火）	地域ケアをめぐって ―回顧と展望― こころの健康センター所長 原　田　雅　典	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科 教授　増　野　　肇
7月28日（水）	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科 教授　増　野　　肇	自立工場をつくって 和歌山県立医科大学 講師　百　渓　陽　三

（キ）老人精神保健研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動を起こす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日　　程	内　容　お　よ　び　講　師
平成5年11月29日（月） 13：00～16：00	「介護の仕方、接し方、家族への支援について」 三重県立看護短期大学 教　授　　杉　浦　静　子
11月30日（火） 10：00～12：00	「社会資源の活用について」 (1)　痴呆性老人に係る福祉対策について 三重県福祉部老人福祉課 在宅福祉係長　渡　辺　重　和

	(2)　特別養護老人ホーム 第二小山田特別養護老人ホーム 施設長　西元幸雄 (3)　在宅介護支援センター 高田在宅介護支援センター センター長　平末義之 (4)　老人性痴呆疾患センター 三重県立高茶屋病院　医療社会室 主幹兼室長　藤澤満紀代
13：00～15：00	「痴呆の診断、治療の基礎的知識」 三重大学医学部 教授　葛原茂樹
15：00～16：00	「痴呆性老人指導マニュアルの活用について」 三重県保健環境部保健予防課 保健指導監　山口直美

（ク）社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は3ヶ月を1クールとして年2回実施した。

各回の受講者は次のとおりである。

	第一回		第二回	
	平成5年9月～11月		平成5年12月～平成6年2月	
受講者	四日市	星野郁子	桑名	紀平由起子
	久居	橋倉英津子	久居	松本真愛
	上野	麻田禮好	伊勢	小野郁代
	熊野	堀木康子	尾鷲	中谷まゆみ

また、受講者に対してのプログラムは次のとおりである。

社会復帰指導者研修会プログラム

開催回数 / 内容 / 開催月	第一回	第二回
	平成5年 9月 ～ 11月	平成5年 12月 ～ 平成6年 2月
オリエンテーション	1単位	1単位
集団指導実習	11	8
生活技術指導実習	4	5
作業指導実習	4	6
専門講義	2	2
計	22	22

＊　1単位4時間とする。

3．広　報　啓　発

(1)　パンフレット

(2)　センターだより「こころの健康」の発行

(3)　見学者の受け入れ指導

(4)　講演会、講義、座談会等

一般県民に対する精神保健知識の普及啓発を目的とし、下記の事業を行った。

(1) パンフレット

今年度は精神保健パンフレットとして、「家庭内暴力」を作成、各関係機関に配布した。

また、前年度に作成した「思春期のこころの健康」「老年期の心の健康」が好評で増刷した。

・家庭内暴力	2,000 部
・思春期のこころの健康	2,000 部
・老年期の心の健康	2,000 部

(2) センターだより「こころの健康」の発行

今年度も、3回（No.20 ～ 22）発行した。内容は下記のとおりである。

平成5年度　センターだより「こころの健康」発行一覧表

発行年月日	内　　容	執 筆 者
No.20 平成5年 6月10日	「心の相談」にみるライフサイクルの課題	宝積クリニック院長 宝 積 己矩子
	共同作業所、ふるさと工房だより 「明るさをみて　暗さをみず」	ふるさと会 大 山 孝 子
	家族会ができました	南勢病院家族会「八の会」事務局 精神科ソーシャルワーカー 服 部 夫佐代
	デイケアを開始しました	桑名保健所　保健指導課 川 辺 伊公子
	私の心の健康法	津　市 佐 竹 敦 子
No.21 平成5年 10月1日	女性のメンタルヘルス	四日市市女性課長 坂 倉 加代子
	「総合病院精神医学」のお話	松阪中央総合病院精神神経科医長 山 嵜 一 正
	デイケア昨今・・・	松阪厚生病院精神科ソーシャルワーカー 倉 田 久美子
	第22回三家連精神保健大会に参加して	三重てのひら（精神保健ボランティア） 笹 山 佐 和
	私の心の健康法	久居市 野 尻 久 雄

発行年月日	内　　容	執　筆　者
No.22 平成6年 2月1日	このごろ思うこと	作家、精神科医 な　だ　いなだ
	アメリカで二ケ所の精神保健センターを訪ねて	精神障害者社会復帰施設 社会福祉法人四季の里施設長 増　田　令　子
	共同作業所「工房T＆T　あれこれ」	三重てのひら（工房T＆T担当） 岡　田　義　孝
	もしもしは、出逢いです!!	三重県こころの健康センター 電話相談員 今　井　英　子
	精神保健ボランティアってなに？	三重てのひら 宮　地　和　子
	私の心の健康法	一志町 寺　嶋　滋　代

(3)　見学者の受け入れ指導

三重大学医学部学生等の見学実習の場として活用され、当センターの事業をとおして精神保健活動についての理解を深めていたゞくためのよい機会となった。

表4　平成5年度見学者

受　講　者　名	実　施　回　数	受　講　者　数
三重大学精神神経科新入局員	1	15
三重県立看護短期大学地域看護学専攻生	3	30
三重大学医学部専門課程2回生・4回生	4	108
川崎医療福祉大学生	1	1
聖路加看護大学生	1	1

計155名

(4)　講演会、講義、座談会等

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は30回で、対象者は1,263名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。（表5）なかでも職場や家庭でのストレスや不適応問題とそれらへの対処についての関心が年々高まっていることが示唆される。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

表5　平成5年度　他機関から依頼の講演会等

月日	名　称	内　容	対象者	場　所	主　催	派遣者
H5 5・28	職員のメンタルヘルス研修会	講演「『うつ状態』のチェックとその後の反応をめぐって」	保健所所長、医師、保健婦等 30名	県津庁舎	県職員課	医師
6・14	第17回すずわ会総会	講演「共同作業所における通所生とのかかわり方」	家族会会員等 30名	鈴鹿市社会福祉センター	鈴鹿地域家族会	医師
6・24	美里村職員組合女子部研修会	講演「働く女性のメンタルヘルス」	美里村職員組合女子部員 21名	美里村社会福祉センター	美里村職員労働組合	保健婦
7・6	平成5年福祉事務所等相談援助職員研修会	講演「こころの問題とその反応」	援助職種 45名	県津庁舎	県社会課	医師
7・7	庁内相談連絡調整会議	講演「相談活動の実際について」	相談員等 16名	四日市市役所	四日市市女性課	心理技術者
7・13	志摩病院院内看護研修会	講演「心の健康について」	看護職等 60名	県立志摩病院	県立志摩病院看護部	医師
7・15	松阪地区高等学校ＰＴＡ研修会	講演「精神科医からみた思春期の心の問題」	地区高等学校ＰＴＡ連絡協議会会員 70名	松阪グリーンホテル	松阪地区高等学校ＰＴＡ連絡協議会	医師
7・19	久居保健所管内保健婦研修会	講義「グループワークの技法について」	管内保健婦 22名	久居保健所	久居保健所	心理技術者
8・11	カウンセリング面接技術研修会	講義「面接技術について」	紀北福祉、尾鷲保健所関係職員 16名	県尾鷲庁舎	尾鷲保健所	心理技術者
8・26	平成5年度ボランティア教室	講演「人間の一生と精神保健」	5年度受講生、4年度受講生、家族会員 40名	上野保健所	上野保健所	医師
9・2		講義「通リハ事業について」	アイリス会員 12名	津市中央公民館	アイリス	精神科ソーシャルワーカー

月日	名　　称	内　　容	対　象　者	場　　所	主　　催	派　遣　者
H 5 9・20	第二回精神保健講座	講演「精神保健のあらまし」	管内民生委員等 25名	県志摩庁舎	志摩保健所	医師
9・22	安全衛生管理者研修	講演「職場のメンタルヘルス」	県職員課、管内所属長 25名	県熊野庁舎	県職員課	医師
9・30	安全衛生管理者研修	講演「職場のメンタルヘルス」	県職員課、管内所属長 35名	県伊勢庁舎	県職員課	医師
10・27	第一回家族教室	講義「やさしいこころの病について」	家族、保健所職員 14名	県尾鷲庁舎	尾鷲保健所	保健婦
12・17	第二回家族教室	講義「面接技術の学習」	保健所、福祉事務所職員 12名	県尾鷲庁舎	尾鷲保健所	心理技術者
H 6 1・24	精神保健ボランティア講習会	講義「地域における精神保健活動」	受講者、保健所職員 19名	県上野庁舎	上野保健所	保健婦
1・30	三重県衛生検査技師学会	講演「心の時代と心の病」	衛生検査技師 120名	サンワーク津	三重県衛生検査技師会	医師
2・2	県立看護短大地域看専攻生見学	講義「センターにおける精神保健活動」 「地域における精神保健活動」	県立看護短大地域看護学専攻生 25名	こころの健康センター	県立看護短大	保健婦
2・15	第三回家族教室	講義「精神障害者と家族のための福祉制度」	家族、保健婦 8名	こころの健康センター	尾鷲保健所	精神科ソーシャルワーカー
2・15	電話相談員研修会	講義「センター事業の概要」 「センターにおける精神保健相談」	電話相談員 8名	こころの健康センター	県教育委員会生涯学習課	保健婦 心理技術者
2・22	平成5年度健康教育講座	講演「職場のメンタルヘルスについて」	県立高校教頭 80名	県総合教育センター	県教育委員会体育保健課等	医師
2・28	健康保険組合事務担当者研修会	講演「こころの健康を保つために」	健康保険組合事務担当者 17名	農協健保会館	健康保険組合連合会三重連合会	保健婦

月日	名　　称	内　　容	対　象　者	場　　所	主　　催	派　遣　者
H6 3・2	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 30名	こころの健康センター	三重大学医学部	医師
3・3	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 35名	こころの健康センター	三重大学医学部	精神科ソーシャルワーカー
3・4	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 35名	こころの健康センター	三重大学医学部	保健婦
3・14	職業リハビリテーション講習会	講演「精神障害者と仕事」	職業センター、職業安定所、保健所職員等 60名	勤労者福祉会館	三重障害者職業センター	医師
3・23	ホームヘルパー研修会	講義「こころを病んだ人たちを理解するために」	ホームヘルパー 163名	三重県社会福祉会館	三重県ホームヘルパー協議会	保健婦
3・24	ホームヘルパー研修会	講義「こころを病んだ人たちを理解するために」	ホームヘルパー 170名	三重県社会福祉会館	三重県ホームヘルパー協議会	保健婦
3・29	家庭裁判所調査官自庁研修	講演「思春期の心性をめぐって」	県内調査官 20名	津家庭裁判所研修室	津家庭裁判所	医師

計　30回　1，263名

4. 調　査　研　究

精神保健センターは、「地域精神保健活動を推進するために必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備すること」とその運営要領に定められている。

統計及び資料の収集整備に関しては、センター開設当初より精神保健関係の各種出版物、パンフレット、研修会の講演テープ、新聞記事のスクラップ等出来る限りの収集整理を行い、関係各位からの問い合わせや貸出しに応じている。

精神保健上の諸問題の調査研究については、県下の精神障害者小規模作業所を対象に、作業所の現状と今後の課題についてアンケート調査を実施した。

また、全国精神保健センター長会への研究協力も行った。

「三重県における精神障害者小規模作業所の現状と課題」

精神障害者の地域での生活を支える場の一つとしての共同作業所づくりは、各地で年々盛んになり、現在全国で700か所を越えている。

当県においては、昭和59年に最初の作業所が設置され、その後も地域の家族会等において作業所づくりへの取り組みがなされた結果、平成5年度には3か所が開設され、県内の作業所は8か所となり、各々の地域の特性を活かした活動が行われている。

社会復帰、社会参加の拠点としての作業所に対する当事者や家族のニーズが、益々高まっている状況の中で、今後のよりよい作業所活動のあり方について検討するため、県下の精神障害者小規模作業所の現状と課題についてアンケート調査を行った。調査内容および結果は次のとおりである。

Ⅰ　調査内容

県下の作業所8か所を対象に、作業プログラム、指導体制、通所生の人員、作業所における問題点および今後の課題等について調査した。

おたずね

貴作業所名

できるだけ率直なご意見をご記入くださいますようお願いいたします。

(1)　作業プログラムについて

イ．どんな作業をしておられますか。内容を多い順にお書きください。

ロ．作業以外に行事やレクリエーションなどどんなものを取り入れておられますか。

ハ．これからどういう作業プログラム（行事等含む）を望んでおられますか。

(2)　作業指導体制について

イ．日常的に何人位でどなたが指導しておられますか。○印を付け人数を入れて下さい。

（所長・専任指導員・指導員・家族・ボランティア・その他）

（　人）（　人）（　人）（　人）（　人）（　人）（計　～　人）

ロ．指導者の報酬は（H5年度）ありますか。○印をしてください。

所長（有り・なし）　専任指導員（有り・なし）　指導員（有り・なし）

家族（有り・なし）　ボランティア（有り・なし）　その他（有り・なし）

(3) 通所メンバーについて

イ．現在おおよそ何人位のメンバーが貴所に通所しておられますか。

・ほぼ毎日通所（　～　人）　・時々通所（週1～2回）（　～　人）

・たまに通所（月1～2回）（　～　人）

(4) 貴所において下記の問題はありますか。該当する欄に○印をしてください。

問題項目	おおいにある	まあまあある	ほとんどない
イ．運営資金について			
ロ．近隣との関係について			
ハ．メンバーへの対応（指導）について			
ニ．関係機関（病院、保健所等）との連携			
ホ．その他（　　）			

(5) 貴所の特長（よいと思うところ）はどんな点ですか。自由にお書きください。

(6) 今後どのような作業所を目指しておられますか。自由にお書きください。

(7) 今後の課題についてお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

Ⅱ　調査結果

「おたずね」集計結果（回答作業所数　8か所）

(1) 作業プログラムについて

イ．どんな作業をしておられますか。

＊内職・軽作業（フックボルト組み立て・自動車ハーネス加工・DM封筒入れ・下請け加工・洗濯干し組み立て・割り箸袋入れ・容器のキャップ締め・ホッチキスの箱詰め・箱組み立て・シール貼り等々）

＊手芸・工芸（刺し子・人形・袋物・風車・クリスマスリース・紙すきはがき・キーホルダー・等々）

＊野外作業（ゴルフ玉拾い・草取り・農作物の採り入れ・清掃作業・資源回収　等々・外勤　協力企業内での箱組み立て）

＊自主製品（パウンドケーキ、クッキーなどの製造販売）

ロ．作業以外に行事やレクリエーションなどどんなものを取り入れておられます

＊対外行事への参加（運動会・クリスマス会・地域の各種行事）

＊スポーツ　（ソフトボール・ゲートボール・海水浴・スキー）

＊レクリエーション（ハイキング・一歩会・カラオケ・ぶどう狩り）

＊社会見学　（パン工場・他の作業所の見学など）

＊ボランティア活動（老人ホームのシーツ交換）

＊その他　（料理・菓子づくり・掃除・絵画教室・誕生会など）

ハ．これからどういう作業プログラム（行事等含む）を望んでおられますか。

＊作業内容の拡大（自主製品作り・室内、野外作業を増やす・ワープロ印刷）

＊文化面の拡大（ピアノ・パッチワーク・トールペイントなどの各種教室・会報、文集の製作・クラブ活動）

＊レクリエーション（温泉行き・ボーリング・焼き芋パーティ・忘年会など）

＊その他　社会見学・現状維持

(2)　貴所において下記の問題はありますか

	おおいにある	まあまあある	ほとんどない	
イ．運営資金について	4	3	1	補助金が低額
ロ．近隣との関係	2	1	5	偏見、誤解
ハ．メンバーへの対応	2	4	1	専門家との連携　就職指導
ニ．関係機関との連携	2	3	3	病院、保健所等、専門家との連携
ホ．その他について	1	1	0	家族、ボランティアの参加の拡大 心身障害者との混合利用についての理解

(3)　貴所の特長（よいと思うところ）はどんな点ですか。

＊気楽で家庭的な雰囲気……7か所

＊混合利用～法律の枠にとらわれず、補いあい、刺激しあい、高め合う

＊その他　立地条件・それぞれ得意な分野で力を発揮する・給食サービスができる・トラブルがない・家族、ボランティアが協力し合って実施

＊「通過施設」としてメンバーの社会復帰を支援している

(4)　今後どのような作業所を目指しておられますか。

＊地域の人々との交流を深め、地域に愛される場所に……3

＊自主製品作りを……3

＊メンバーの憩いの場、家族の交流の場に……2

＊趣味の教室など文化的側面の諸活動を……2

＊メンバーの能力、興味に合わせた作業プログラム……1

＊混合授産および生活センター、生活ホームの設立……1

(5) 作業指導体制について

イ．日常的に何人位でどなたが指導しておられますか。

	所長	専任指導員	指導員	家族	ボランティア	その他	1日平均の従事者数
A	1		1	6	6		8
B	1		1			(補助員) 1	3
C	1	3		1	3		4～8
D		1		3	3		7
E	1		1	5	1		8
F	1	1		4	1		1～4
G	1	1			3～4		5～6
H	1		1	2			3～5

ロ．指導者の報酬は（H5年度）ありますか。

・所長（有り…4・なし…3）・専任指導員（有り…2・なし…2）

・指導員（有り…2・なし…2）・家族（有り…1・なし…4）

・ボランティア（有り…0・なし…5）・補助員（有り…1・なし…0）

(6) 通所メンバーについて

イ．現在おおよそ何人位のメンバーが貴所に通所しておられますか。

	ほゞ毎日通所	時々（週1～2日）	たまに(月1～2日)	計
A	9人	0人	1人	10人
B	12～14	5～6	5～6	22～26
C	9	1	0	10
D	7～8	2	1	10～11
E	5	3	3	11
F	0	20～25	1～2	21～27
G	0	3	0	3
H	2～3	2～3	2	6～8
計 ()は構成比	44～48 (45.3)	36～43 (40.5)	13～15 (14.2)	93～106 (100)

〔1〕作業所設置状況

県内の作業所は、昭和59年に1か所が開設されて以降、昭和63年、平成2年に各1か所、平成4年に2か所、平成5年に3か所が設置され、平成5年末現在8か所となっている。

地域別に見ると、四日市、津保健所管内に各2か所、鈴鹿、松阪、伊勢および上野保健所管内に各1か所が設置されているが、桑名、志摩、尾鷲および熊野保健所管内では未設置となっている。

〔2〕運営主体

運営主体は、社会福祉法人が1か所、家族会が6か所（地域家族会5か所、病院家族会1か所）の他に心身障害者小規模授産所において、精神障害者が受け入れられている作業所が1か所ある。

〔3〕運営状況

① 作業指導体制

指導体制としては、所長、指導員の他に家族会、ボランティアを協力者としており、指導者、協力者全員また一部に報酬を支払っている所が4か所、全くなしの所が4か所であった。

② 通所者の状況

県内8か所の作業所に、100名余りが通所している。通所状況をみると、「ほとんど毎日」が45.3％、「時々（週1～2回）」が40.5％、「たまに（週1～2回）」が14.2％であった。

③ 作業プログラム

内職、軽作業を中心に、手工芸、野外作業などが組み合わされた作業が行われており、自主製品（パウンドケーキ、クッキー等）を製造販売している作業所も1か所あった。

④ 作業以外のプログラム

作業以外にも、対外行事への参加やスポーツ、カラオケなどのレクリエーションも計画されている。

また、自主製品づくりなど作業内容の拡大を目指す一方で、ピアノやパッチワークなどの各種教室、文集づくりなど文化的なプログラムや社会見学などが今後計画したいこととして掲げられている。

〔4〕作業所の長所

よいと思う所は、「気楽で家庭的な雰囲気」と回答したのは、8か所中7か所であった。他には「立地条件がよい」「給食サービスができる」「家族、ボランティアが協力しあっている」「法律の枠にとらわれず、補いあい、刺激しあい、高めあっている」等と回答されている。

〔5〕今後の課題

作業所における問題点については、8か所中7か所が「運営資金にかかる問題がある」と回答している。近隣との関係については、問題なしが5か所であったが、偏見、誤解など問題ありと回答した所が3か所あった。保健所、病院等関係機関との連携についても、5か所が問題ありと回答している。

いくつかの問題を抱えながらも、地域の人々との交流を深めるとともに、自主製品を作り、文化的な活動をプログラムに取り入れ、働く場、憩いの場、交流の場となる作業所を目指している。

今後の課題としては、通所者への就労指導等指導方法や作業プログラムの工夫また職員の確保と処

遇等指導体制のあり方、運営資金等経済基盤の弱さへの対策、作業所間の情報交換と連携のための組織づくり、さらには作業所活動をとおして、地域での精神障害者をめぐる様々な問題を明らかにし、地域の人々と共に考えていくことが大切であるなどが課題として出された。

〔6〕まとめと展望

三重県における精神障害者小規模作業所は、昭和59年に最初の作業所が設置されて以降、家族会をはじめとした関係者の努力の結果、平成5年度末現在で8か所が設置されているが、地域別の設置状況をみると、志摩および東紀州地域には、まだ設置されていない。

県内8か所の作業所には、100名余りの通所者があり、その内約半数の人がほとんど毎日通所しており、内職、軽作業を中心にそれぞれの作業所で工夫をこらした作業プログラムが計画されている。作業所の運営は、8か所中6か所の作業所で家族会が主体となっている現状の中で、運営資金についての問題をもっているところが多く、財政基盤のないところは、自然淘汰されていくのではないかという不安も出されているが、受け身ではなく、自主製品づくりを目指すなど、作業所側の熱意で乗り越えて行こうという姿勢がうかがえる。

通所者への指導体制の充実、運営資金の確保、作業所間の情報交換のための組織づくり等を課題によりよい作業所づくりを目指して努力されている。

社会復帰の受け皿として、出発した作業所は年々増えてきており、それとともに作業所へのニーズも多様化してきている。

作業所は、就労困難な精神障害者の「働く場」を提供することにその中心的な機能をおく一方、「憩いの場」「交流の場」など地域の中での「居場所」としても大きな役割を果たしている。

就労へのステップとしての作業所では、就労を希望しながらも就労意欲の低さが指摘される通所者への指導や作業所からの就労率の低さの中での「働ける場」の開拓等通所者の背景やニーズにあった就労支援にあたっては様々な課題がある。

これらのことに対応するためには、各関係機関をはじめ職親やボランティアとの連携のもとに、地域のなかに支援体制を組織していくことが必要である。

障害をもちながら、地域のなかで生活していこうと努力している通所者にとっての作業所は「憩いの場」であり、地域の人々との「交流の場」でもあることから、作業所における精神保健ボランティアの果たす役割は大きく、県内の作業所においても、ボランティアと協同しながら活動されているところも多くなってきている。

当センターが、平成元年に開始した精神保健ボランティア教室の修了生による自主グループ「三重てのひら」は、各地域で活発なボランティア活動を展開している。

本年度からは、一部の保健所においても講座が開始され、県内の精神保健ボランティアパワーが強化されつつあり、今後の活動が期待されている。

センターとしても、今回の調査結果を踏まえ、精神障害者の地域での生活の支え手である作業所が、家族会やボランティア等とともに地域ケアの推進役として、その機能を充分に果たせるよう支援していきたい。

5. 協力組織の育成

(1) 関係団体への協力援助

(2) 地域家族会リーダー研修会

(3) 精神保健ボランティア教室

(1) 関係団体への協力援助

（ア）三重県精神障害者家族会連合会（三家連）

三家連が発足以来25年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては保健・医療・福祉等関係機関の連携の強化に加えて、精神保健ボランティアグループの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

平成５年度においても、家族会の育成とともに、こうした関係領域の拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、例年開催される三家連精神保健大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、毎年一回三家連役員とセンター所長の懇談会など、援助回数は年間19回となっている。

（イ）精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、今年度病院家族会が１か所増え４か所、地域家族会７か所が現在活動している。

地域家族会への援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定期総会への参加や会独自で計画された研修への講師派遣のほか、平成４年度から５年度にかけて５か所の共同作業所が開催され、地域での受け皿つくりに積極的な取り組みが行われている中、情報提供や各関係機関との連絡調整等年々協力援助の要請が増えてきている。

平成５年度、各地域家族会への指導援助回数は28回となっている。

今年度は、地域家族会が運営主体となり、当センターの精神保健ボランティア教室のOBで結成されているボランティアグループ「三重てのひら」が支援した共同作業所が津市に開設され、その開設準備、運営に対し協力援助を行った。

（ウ）アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。県内には、６ブロック13支部で各々例会がもたれるなど、地域に根ざした活動が行われている。また、病院においても断酒会が結成され活動されている。

地域においては、従来から「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、センターも世話人の一人として参画している。

平成５年度の協力援助実施状況は次のとおりである。

内　　容	実施回数
アルコールネットワーク会議及び連続講座	3
三重断酒新生会中部支部結成16周年記念大会	1
鈴鹿さくら病院断酒会結成５周年記念大会	1
三重断酒体育祭	1

(2) 地域家族会リーダー研修会

保健所単位の地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度からこの研修会を開催している。

県下各地において、関係機関のご協力のもとに家族会を運営主体とした共同作業所づくりへの取り組みが盛んになってきていることから、これからの活動を更に推進するため関係者の研修および相互の交流を図ることを目的に作業所交流会を開催した。

研修内容は、次のとおりである。

	研　修　内　容	参加者数および対象者
第一回 平成5年 7月28日	講演会 演題「自立工場を作って」 講師　和歌山県立医科大学 講師　百渓　陽三　先生	78名 共同作業所当社会復帰施設職員、家族会会員、ボランティア、保健・医療・福祉関係者
第二回 平成5年 11月17日	作業所交流会 1　体験学習 「サイコドラマをとおして、参加者の親睦を図る」 2　グループワーク 「作業所の現状と課題」	18名 共同作業所長および指導員
第三回 平成6年 3月9日	作業所交流会 全体討議 「共同作業所におけるメンバーの支援」 話題提供 「就労を希望するメンバーの支援」 わかば共同作業所長　伊藤　博子　氏 「多様なニーズを持つメンバーへの対応をめぐって」 上野ひまわり共同作業所 指導員　百上　真奈　氏 助言者　県立高茶屋病院 医　師　木村　章弘　氏	19名 共同作業所長および指導員

(3) 精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深め、それを支援することを主な目的として、平成元年度より精神保健ボランティア教室を開催している。

平成5年度も、これらの活動の充実、拡大を図るため教室を開催した。

教室の実施状況、受講者の状況、及び教室修了者の活動状況は、次のとおりである。

精神保健ボランティア教室実施要領

1．目　的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押しすすめていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を開催するものとする。

2．主　催

三重県こころの健康センター

3．日　時

平成5年8月5日（木）～平成5年11月18日（木）

毎月第1、3木曜日（13：30～15：30）

4．会　場

三重県こころの健康センター

5．対　象

精神保健やボランティア活動に関心があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方および受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

定員30名

6．内　容

別表プログラムのとおり。

7．費　用

受講料は無料とする。

8．募集方法　一般公募

9．申込み方法および期日

申込み用紙により申し込む。　締め切り　7月21日（水）ただし定員に達し次第締め切る。

（別　表）

平成5年度　精神保健ボランティア教室プログラム

回		内　容　（13：30～15：30）	
第1回	8月5日（木）	（13：30～14：10） 開講式 オリエンテーション	（14：30～15：30） 講義「ボランティア活動のあり方」 三重県社会福祉協議会　大形　治
第2回	8月19日（木）	講義「ライフサイクルと心の健康」 思春期・青年期 小児心療センターあすなろ学園・医長　西田　寿美	
第3回	9月2日（木）	講義「ライフサイクルこころと健康」 中年期・老年期 三重県こころの健康センター所長　原田　雅典	
第4回	9月16日（木）	講義「障害を持って生きること」 国立療養所榊原病院院長　豊田　純三	
第5回	10月7日（木）	心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主査・臨床心理士　久保早百合	
第6回	10月21日（木）	「施設見学」 「わかば共同作業所」	
第7回	11月4日（木）	講義「新たな生きる目標を求めて」 －精神障害者の社会復帰とボランティア活動－ 大正大学文学部　助教授　石川　到覚	
第8回	11月18日（木）	反省会 「三重てのひら」の会員と共に	

※プログラムは変更することがありますのでご了解下さい。

〈受講者の状況〉

表1　ボランティア経験の有無および職業の有無（年代別）

区分 年代	人数（%）	ボランティア経験 有	ボランティア経験 無	有職者 公務員	有職者 看護婦	有職者 会社員	有職者 パート	有職者 講師	有職者 農業	有職者 自営業	専業主婦	なし
20	1		1									1
30	1	1						1				
40	15	2	13	1	4	1	2		1	3	1	2
50	16	5	11	2	2	2	1				3	6
60	11	5	6			2		1			1	7
計	44	13	31	3	6	5	3	2	1	3	5	16
%	100.0	29.5	70.5	−	−	−	−	−	−	−	−	−

受講者の年令層は20才代から60才代と幅広いが、40才代、50才代、60才代が全体の9割を占めている

表2　受講者の趣味、特技など（複数回答）

種別	人数	種別	人数	種別	人数
読書	8	卓球	1	お菓子作り	1
茶道、華道	2	カウンセリング	1	詩吟	2
琴	2	木彫り	1	ボランティア活動	1
園芸	4	手織り	1	旅行	3
ゲートボール	2	書道	2	ワープロ	1
スポーツ	2	カラオケ	1	登山	2
音楽鑑賞	4	短歌	2	料理	2
手芸・洋裁	4	陶芸	2	水泳	1

表3　年度別、地域別受講者数

年度	総数(人)	桑名	四日市	鈴鹿	津	上野	久居	松阪	伊勢	志摩
H5	44	1	14	1	5	8	6	5	4	0
H4	37	0	3	8	5	4	12	2	2	1
H3	28	0	4	2	8	6	6	0	2	0

〈精神保健ボランティア教室修了者の活動状況〉

平成元年度より開催されたボランティア教室は、受講生が年々増加し、平成５年度も従来どおり一般住民を対象として県下市町村の広報掲載を依頼し公募したところ、定員を大きく上まわる程の申し込みがあった。

平成４年４月「三重てのひら」として発足した、精神保健ボランティアグループは、平成５年度末現在、40歳代から60歳代を中心に男女合わせて66名に達している。

グループへの加入条件としては特に制限はないが、平成元年から開設している精神保健ボランティア教室を受講した人（総数277名）が話し合い、行政がそれに参入し発足したグループで、集まったメンバーは、地域や職場の様々な世代の人達である。

目的は、精神障害者が地域で生活していくための支援であり、精神障害者が社会で受け入れてもらうための援助や啓発を行う事が活動の方針となっている。

特に本年度は、精神障害者共同作業所「工房Ｔ＆Ｔ」開所に向けて、積極的な活動が展開された。

具体的な活動内容としては

○精神障害者の家族会活動への協力

○共同作業所への支援

○資金獲得活動（成果物の販売、バザーの実施など）

○こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業（デイケアー）への協力

○会報「三重てのひら」の刊行

○精神保健に関する各種研修会への参加及び協力

○広報、啓発活動等

以上の活動を通して、精神障害者との交流を図っている。

会の活動は、それぞれの会員の持っている能力を発揮してもらいながら、発足後２年経過した現在、活動の成果もすこしづつ出はじめているところである。

6．心の健康づくり推進

(1) こころの健康づくり教室

(2) こころの健康づくり推進連絡会議

(3) 思 春 期 講 座

近年の社会生活環境の複雑化に伴い、これらのに適応するためのストレスが増大、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大している。

こころの健康センターでは、これら精神疾患に関する窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神保健の保持を図る目的で次の三事業を実施した。

(1) こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、回復途上にある精神障害者の社会参加に向けての交流の場として、昨年に引き続き「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

1．目　的

県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、こころの健康センターデイケア等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一同に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る。

2．開催日時

平成5年9月25日（土）午前10時30分～午後3時

3．場　所

久居市総合体育館　　久居市野村町877-1　☎（0592）55-6081

4．主　催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

デイケア実施保健所（桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、上野、尾鷲）

デイケア実施病院（国立療養所榊原病院、県立高茶屋病院、松阪厚生病院）

共同作業所（わかば共同作業所、すずわの家、松阪工作所、ふるさと工房、みのり工房）

社会復帰施設「四季の里」

三重県精神障害者家族連合会、地域家族会

三重てのひら「精神保健ボランティア」

こころの健康センター

5．フェスティバル実行委員会≪仮称≫の設置

フェスティバルの成果をより高めるために上記関係機関から実行委員を選出願い、実行委員会を開催しフェスティバルの具体的な内容、準備等について検討を行う。

6．プログラム

① 誰もが参加しやすいレクリエーション、スポーツ（運動会競技）を中心とした内容で別途定める。

② 各施設、デイケア等の作品の展示を行う。

7．広　報

① フェスティバルのポスターを作成、各関係機関に配布、案内するとともに参加を呼びかける。

② その他新聞等により広報活動を行う。

こころの健康づくりフェスティバルプログラム

期　日　平成5年9月25日（土）

場　所　久居市総合体育館　久居市野村町877-1　☎ 0592-55-6081

日　程　10：00　受付

25　集合（グループ別に集合、プラカードを先頭に入場行進）

30　開会式

開会宣言、実行委員長挨拶、来賓挨拶、競技の説明・注意事項、選手宣誓、ラジオ体操

≪午前の部≫

10：45～11：05	①	ジャンケンゲーム	全員参加
（休憩15分）			
11：20～11：40	②	スプーンレース	(100) 団体競技
11：40～12：00	③	風船ゲーム	(100) 団体競技
12：00		昼食・休憩	

≪午後の部≫

1：00～1：20	④	ウルトラクイズ	全員参加
1：20～1：40	⑤	パン食い競争	(120) 個人競技
（休憩30分）			
2：10～2：30	⑥	玉入れ	(100) 団体競技
2：30～2：45	⑦	踊り「炭坑節」	全員参加
2：45		閉会式	
		講評、閉会宣言	
3：00		終　了	

フェスティバルの運営については、昨年同様2回の実行委員会を開催した。

病院、作業所、保健所ディケア、家族会ボランティアなど年々参加者数も増え、フェスティバルの当日は310名余の参加となり盛会のうちに終了した。

内容・準備には不備な点があったと思われるが、参加者からは楽しかった、来年も参加したいと喜んでいただけた声もきかれ、地域で生活している障害者の社会復帰をめざした有意義な一日であった。

こころの健康づくりフェスティバル　ポスター

(2) こころの健康づくり推進連絡会議

平成5年度のこころの健康づくり推進連絡会議は、共同作業所設立準備委員会を設置し、津地域家族会「ときの会」と精神保健ボランティアグループ「三重てのひら」の活動としてすすめられてきた共同作業所づくりを支援するため、津・久居地域の関係機関の協力のもとに、作業所開設に向けて、支援体制を充実するなど基盤整備を図り、精神障害者の社会復帰・社会参加を推進した。

こころの健康づくり推進連絡会議実施要領

1．目　　的

昭和63年精神保健法が改正され、精神障害者の地域ケアが本格化してきた。

心の病に対する関心や理解の深まりと共に、専門領域だけでなく、地域における各分野からの社会復帰活動への参画がみられるようになりつつある。これら各々の分野の持つ知恵や力を集積し、相互の連携を図る中で、精神障害者の社会復帰、及び地域への普及啓発を促進する。

2．実施主体

三重県こころの健康センター

3．共同作業所設立準備委員会の設置

上記の目的のため、連絡会議に、中勢地域における共同作業所設立準備委員会を設置し、作業所設立にかかる現状と課題について検討すると共に、各関係機関の相互の理解を深め、その役割を明確にし、さらに連携を密にすることにより、地域精神保健活動の充実に図る。

4．協議事項

ア．共同作業所設立に関する現状と課題について検討

イ．関係機関等の協力体制の整備、調整に関すること

ウ．講演会

5．構成メンバー

ア．中勢地区精神病院

・国立療養所榊原病院

・医療法人久居病院

・県立高茶屋病院

イ．中勢地区　市

・津市保健センター

・久居市保健環境課

ウ．中勢地区　保健所

・津保健所

・久居保健所

エ．三家連（三重県精神障害者家族連合会）

オ．ときの会（地域家族会）

カ．三重てのひら（精神保健ボランティアグループ）

キ．こころの健康センター

6．実施時期

第1回　平成5年5月31日（月）

第2回　平成5年6月2日（月）

第3回　平成5年8月17日（火）

〈第1回〉

期　日　平成5年5月31日（月）

議　題　1　会議の主旨説明

2　中勢地域における共同作業所設立に至った経過および作業所の構想について

協議内容

地域家族会「ときの会」と精神保健ボランティアグループ「三重てのひら」の活動としての中での作業所づくりへの取り組み経過について説明され、作業所の運営、資金づくり、支援体制等についての問題点が提案され協議された。

〈第2回〉

期　日　平成5年6月21日（月）

議　題　1　作業計画について

2　通所システムおよび危機対応について

3　運営資金について

協議内容

7月から週1回の作業開始にむけての具体的な作業計画に基づき、メンバーの通所システムや危機対応について協議され、各関係機関の役割と支援体制が決定。

また、運営資金づくりの方法や公的助成金制度の状況等ついて情報交換がなされた。

〈第3回〉

期　日　平成5年8月17日（火）

議　題　1　作業状況と今後の計画について

2　運営委員会の設置について

3　作業所運営事業実施要領（案）について

4　作業所の開所式について

協議内容

7月から週1回で開始された作業状況については、1日平均7名の通所生に、スタッフおよび協力

者として家族会、ボランティアの協力者7～8名、各関係機関からは毎回1名が支援し、せんたくばさみ組立てとダイレクトメール折こみ作業を実施していることが報告された。

また、当面の課題として、地域の自治会とのかかわり、緊急時連絡等のための電話架設などについて協議された。

9月以降は、作業日数を増やし、週2回とし関係機関からの支援も続けていくこととなった。

メンバーや協力者で話し合われていた作業所名が「工房T＆T」と決定し、開所式は11月6日に行われることになった。

運営委員会は、今年度中は準備委員会の委員で構成し、年度内に3回開催することになり、作業所運営事業実施要領（案）が提案され協議された。

(3) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に、現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とするがゆえにさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものもかわりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子どもをもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

（ア）思春期講座の概要

平成5年度　思春期講座実施要領

1．日　　的　　思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める

2．実施主体　　三重県こころの健康センター

3．期　　間　　平成5年10月14日～平成6年2月10日
　　毎月1回（第2木曜日）午後1時30分～3時30分

4．場　　所　　三重県こころの健康センター

5．対 象 者　思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方

6．内　　容　講義　グループワーク（別紙1のとおり）

7．募集人員　20名

8．受 講 料　無料

9．申し込み方法および期日

別紙申込書により申し込む

締めきり　9月22日（ただし定員になり次第締め切る）

思春期講座のご案内

三重県こころの健康センター

思春期は人間の一生の中でも、身体的、心理的、社会的にも変動の著しい時期です。この時期の子ども達は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりがちです。時には、不登校、家庭内暴力、そして心身症などの思春期における心の問題が生じます。

今回、この講座は、思春期における心の問題や疑問を解決していくための勉強や話し合いなどを通じて、これらの青少年に対するよき理解者としての家族を目指していくものです。

記

1．日　　時　平成5年10月14日（木）～平成6年2月10日（木）

毎月第2木曜日（午後1時30分～3時30分）

2．場　　所　三重県こころの健康センター

3．内　　容　講義、グループワーク、プログラム（表1）に示す

4．対象人員　思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方　20名

5．申し込み　申込書に必要事項をご記入の上、申込先までお送りください。

締切り　9月22日

定員になり次第締め切らせていただきます。

6．申し込み先及びお問い合わせは

久居市明神町2501-1　三重県久居庁舎一階

三重県こころの健康センター　☎　0592-55-2151

平成５年度　思春期講座プログラム

日	内容および講師
平成５年 10月14日	児童精神医学の立場からみた思春期 宝積クリニック　院長　宝積己矩子
11月11日	臨床心理学の立場からみた思春期 小児心療センターあすなろ学園　室長　久保　義和
12月９日	教育相談の立場からみた思春期 県立津東高等学校　教諭　内海　康子
平成６年 １月13日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター　主査（臨床心理士）久保早百合
２月10日	グループワーク 子どもの自立をめぐって こころの健康センター　所長（精神科医）　原田　雅典 主査（臨床心理士）久保早百合

（イ）思春期講座の経過

参加者は予定の20名を超え27名となった。子どもが示す問題の内容も、不登校、拒食症、心身症などの適応障害にとどまらず、分裂症の初期症状を疑わせる精神病圏までの幅広い範囲のものであった。

第１回

宝積クリニックの宝積院長が思春期という時期の持つ意味と、ライフサイクルにおけるその重要性をわかりやすく話された。そのなかで心身の変化を強く自覚する最初の時期であることの強調と、そこから生じる混乱、そしてその混乱を回避したり整理するために思春期の子どもが行う行動化の意味を家族に理解できるように説明された。現実、ことばよりも行動で気持ちを表す子どもたちとの葛藤に疲れている親たちにとっては、たいへん意味のある講義内容であった。

第２回

県立小児心療センターあすなろ学園の久保室長が臨床心理学の立場から、さまざまな具体例を通して現代っ子気質を説明された。殊に、社会がすさまじく変動している現代の思春期の子どもたちの混乱が理解されることの必要性が強調され、親自身がこの混乱に巻きこまれないための価値観をいかに持つのかが大切なことであると説明された。最後に二つの症例を通してまとめをされたが、子どもたちが親に望むことは何も特別なことではないことと、子どもが言っていることではなく思っていることを知って欲しいという子どもの思いにいかに答えるかが重要であるとの指摘は、子どもをことばだけでつい理解してしまう親たちにとっては驚きのようであった。

第3回

県立津東高等学校の内海教諭による教育相談の事例が統計を通して、まず、説明された。生徒の不登校の数だけでなく、開設されている相談室の利用回数を示されたが、その中に親の相談回数がかなり含まれており、こうした相談室がない親にとっては、相談室の開設の必要性を切実に感じさせられたようであった。続けて生徒の具体的な悩みについて述べられたが、学業、友人関係などと並び、家庭のことが多くあったのは驚きであった。また、思春期の子どもらしい身体に対する悩みや生き方、そして政治など社会に目を向けた悩みも見られ軽くなったと言われている現代っ子の中にも真摯にいきようとしている真面目な生徒像がうかがわれた。

最後にまとめをされたが、家庭でも学校でも、そして友人関係でもささやかな一歩から始めるまた始まることを強調され、殊に参加者にとっては家庭における対話の重要性を再確認させられたようだった。

第4回

サイコドラマという形をとりながら、ロールプレイングを通して思春期の子どもたちの心の動きを理解する試みをした。参加者自身の思春期時代を回想させられることになって、楽しい気持ちになった人もいれば、葛藤的な気持ちになった人もあったようだった。しかし、それぞれが思春期の気持ちを自ら体験したことは、総じて子どもたちの心を理解する手助けとなるという評価をしていた。

第5回

参加者を三グループに分けて、それぞれ自由に討議してもらった。一連の講義やサイコドラマを通して何を学んだのかが話題になったが、子どもに対する見方が変わった、子どもの心の中にあるものが少しは見えるようになった、親自身の価値観の確立の大切さを学んだなど積極的な意見が多く、今後も継続的に勉強会をしたいという希望が参加者の中から出てきた。その意見はＯＢ会を結成するまでにいたり継続的に思春期の子どもの問題を自ら考えようとする姿勢を親にもたらした。思春期講座の回数はわずかであっても、このように親が自ら考えようとする姿勢ができたことは、この講座の意図する親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら変えるという目的にそったものである。ＯＢグループの結成は、思春期の混乱状態にある子どもたちに対する親のできうる援助の具体的な形を生み出すことを将来期待させるものとなった。

7. 精神保健相談

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

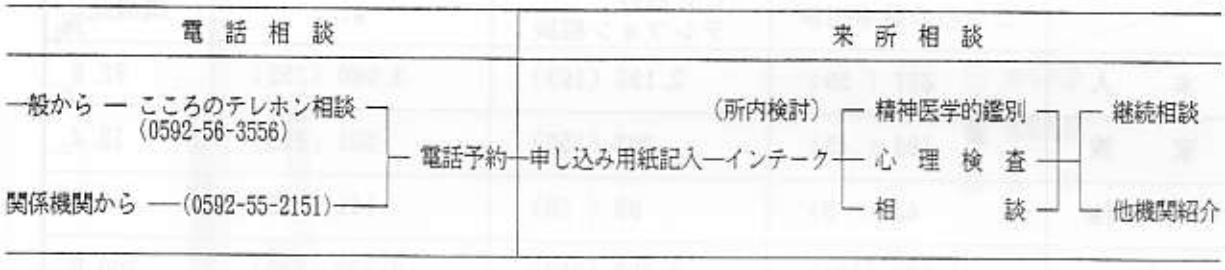
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエットＳＯＳのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成５年度の相談員は、医師２名（所長、非常勤医師１名）、保健婦（精神保健相談員）２名、精神ソーシャルワーカー１名、心理技術者１名の計６名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後４時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）２名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図１に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図１　相談の流れ



平成５年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数（表１・表２）をみると、来所相談が前年度比126％、電話相談が86％であり、来所相談はやや増加、電話相談は減少、全体の相談件数はやや減少している。来所相談の中の継続相談の増加が特徴となっている。電話相談の減少は、専任の嘱託相談員１名が長期欠勤のため、その間１名のみで対応していたことが影響していると思われる。

表1　平成5年度相談件数

（　）内は新規件数

		件　数	構成比%
こころの健康相談		1,139(109)	30.5
こころのテレフォン相談		2,593(363)	69.5
再掲	思春期	497(136)	13.3
	老年期	46(18)	1.2
	酒　害	6(6)	0.2
計		3,732(472)	100.0

表2　平成4年度相談件数

（　）内は新規件数

		件　数	構成比%
こころの健康相談		903(115)	23.1
こころのテレフォン相談		3,013(474)	76.9
再掲	思春期	580(170)	14.8
	老年期	64(40)	1.6
	酒　害	4(4)	0.1
計		3,916(589)	100.0

表3　相談者別件数

（　）内は新規件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比%
本　人	897 (59)	2,193 (193)	3,090 (252)	82.9
家　族	199 (45)	302 (150)	501 (195)	13.4
その他	43 (5)	98 (20)	141 (25)	3.8
計	1,139 (109)	2,593 (363)	3,732 (472)	100.0

相談者別件数（表3）については、全体的に昨年度より減少しているが、本人の来所相談のみ増加している。年度別相談件数の推移をみると、来所相談は年々増加の一途をたどり、平成元年度の418%、昨年度の126%となっており、継続相談の増加が来所相談の増加の原因となっている。

表4　年度別相談件数の推移

（　）内は新規件数

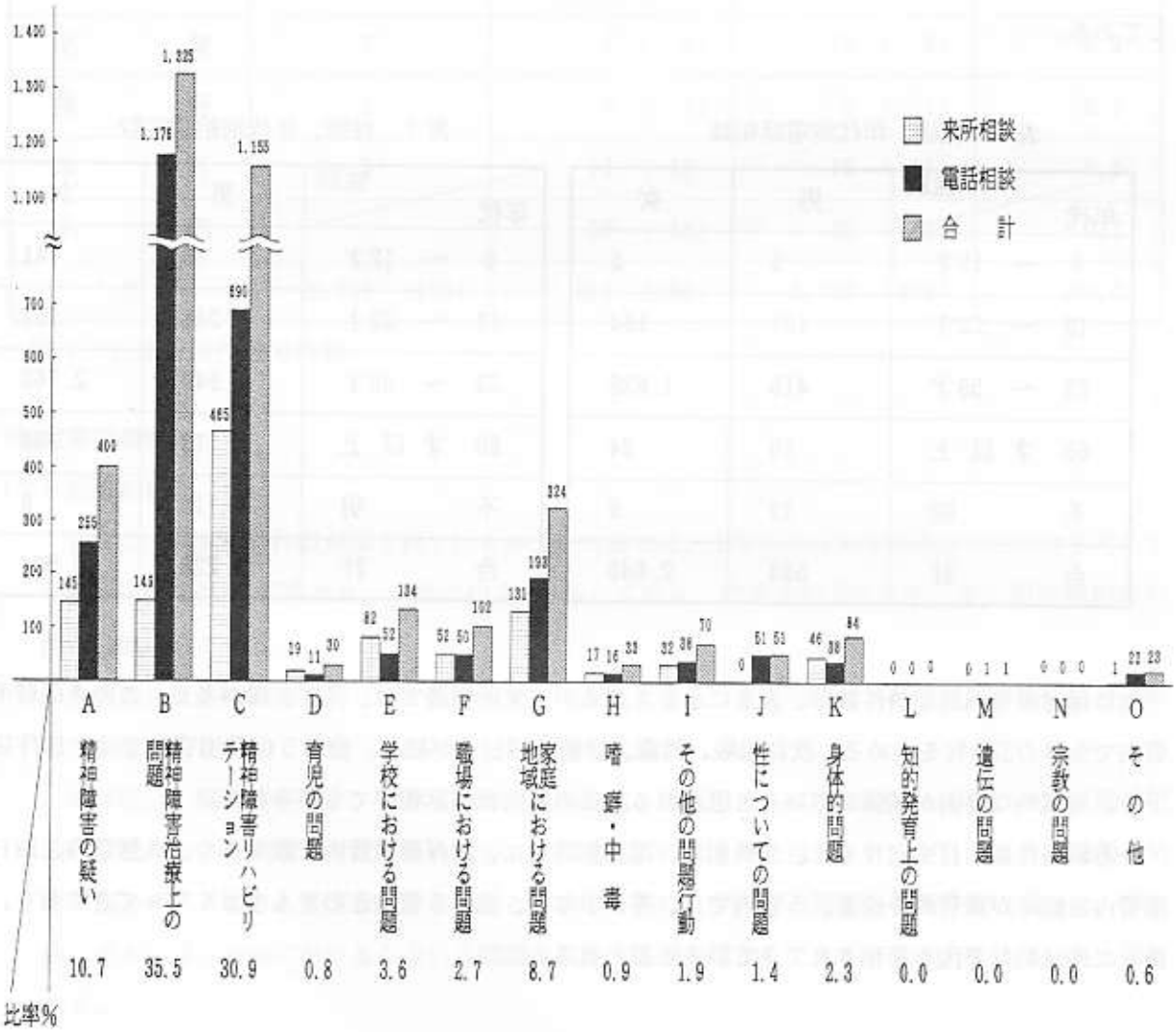
年　度	来所相談	元年比	テレフォン相談	元年比%
平成元年度	272 (109)	100.0	1,817 (315)	100.0
2	454 (86)	166.9	2,694 (291)	148.3
3	581 (77)	213.6	2,772 (320)	152.6
4	903 (115)	332.0	3,013 (474)	165.8
5	1,139 (109)	418.0	2,593 (363)	142.7

相談内容別件数は図２に示してある。全体を大きく分けると精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害に分けることができる。精神障害に関したものは全体の77.1％とあがっており、その中でも治療上の問題が35.5％、リハビリテーションが30.9％となっている。昨年度に比べ、リハビリテーションの相談件数が２倍近くに増加していることは、社会復帰への関心が高まっているものと考えられる。

適応障害の中では、地域・家庭における問題、学校における問題、職場における問題が全体の15％、適応障害の中では65.5％をしめ、ひき続き現代社会における地域及び家庭、そして、学校や職場での機能が低下していることがうかがわれるが全体的件数は昨年より低くなってきている。

本年度の特徴としては、育児の問題・嗜癖・中毒・身体的問題の来所相談が、昨年度に比べ、３～４倍増加していることである。

図２　相談内容別件数



次に表5に示されている性別、年代別件数についてみてみると、来所相談では、男性が女性よりも多い傾向は今年度も変わらないが、その差は縮まっており、年代によっては女性の方が多くなっている。

年代では今年度も、圧倒的に成人が多くなっているが、女性で、小児、老人が昨年に比べ、増加している

次に表6に示すように電話相談について同じく性別、年代別にみてみると、成人で女性が男性の4倍近くの相談件数を示しており、この傾向は昨年度と変わらない。また、男女とも成人の相談件数が多いのも変わらない。

性別、年代別相談件数の合計については表7に示してある。

表5　性別、年代別来所相談

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	3	36
13 ～ 22才	134	93
23 ～ 59才	534	325
60 才以上	3	10
不明	1	0
合計	675	464

表6　性別、年代別電話相談

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	9	5
13 ～ 22才	107	164
23 ～ 59才	415	1,838
60 才以上	10	24
不明	12	9
合計	553	2,040

表7　性別、年代別相談件数

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	12	41
13 ～ 22才	241	257
23 ～ 59才	949	2,163
60 才以上	13	34
不明	13	9
合計	1,228	2,504

次に保健所管内別相談件数が、表8に示してあるが、来所相談では、久居、津が多く、この2保健所管内で全体の52.5%を占める。次に松阪、鈴鹿、伊勢、四日市が続く。他の5保健所管内では、10件以下で、地域的な要因が関係していると思われる。この傾向は電話相談でもみられる。

一方新規件数に目を向けると、来所相談、電話相談共に、津保健所管内で最も多く、久居管内、四日市管内と続くが津管内を徐き、5管内では、差が少なく、他の5管内との差も小さくなってきており、徐々に地域的な要因が緩和されてきていると思われる。

表8　保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比 %
桑　　名	7 (3)	21 (14)	28 (17)	0.8
四　日　市	109 (9)	123 (56)	232 (65)	6.2
鈴　　鹿	131 (8)	727 (42)	858 (50)	23.0
津	288 (38)	402 (75)	690 (113)	18.5
久　　居	310 (24)	325 (49)	635 (73)	17.0
松　　阪	151 (11)	737 (33)	888 (44)	23.8
伊　　勢	117 (10)	146 (33)	263 (43)	7.0
志　　摩	3 (3)	11 (9)	14 (12)	0.4
上　　野	10 (3)	54 (16)	64 (19)	1.7
尾　　鷲	7	6 (6)	13 (6)	0.3
熊　　野	1	2 (1)	3 (1)	0.1
県　　外	5	14 (11)	19 (11)	0.5
不　　明		25 (18)	25 (18)	0.7
計	1,139 (109)	2,593 (363)	3,732 (472)	100.0

※（　）は新規件数で内数

〈特定専門相談〉

（ア）思春期相談

表9に内容別相談件数が示されているが、この表では、中学生から大学卒業までの年令を考えている。来所相談は227件あり、全体の19.9%を示しており、昨年の27.5%に比べると思春期相談の割合は減少している。

内容的には、精神障害者リハビリテーションが最も高く、次に学校における問題が続くのは、昨年度と変わらない。

本年度は、精神障害疑い、嗜癖・中毒が来所相談、電話相談共に増加しているが、一方、電話相談の学校における問題が半数以下に減少している。このことは、当センターがこのような問題を気軽に相談できる場として定着してきたことを示すと共に、学校での問題の相談件数の減少は、学校内、あるいは、地域におけるこういう問題を相談する場が増加してきているためではないかと思われる。

（イ）老年期相談

60才以上のいわゆる老年期の相談は、今年度は47件であり、全体の1.3%となり、昨年の1.6%より

やや減少している。内容的には、家庭（地域）における問題が36.2%で最も高く、次に、精神障害の疑い、精神障害治療上の問題（共に17.1%）が続いている。

（ウ）酒害相談

酒害相談は表11に示すように6件で、昨年度同様少なくなっている。これは、アルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、保健所への酒害ケースのコンサルテーションの増加から、直接当センターへ相談がもち込まれることがますます少なくなったと思われる。

表9　思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総件数	227 (100.0)	270 (100.0)	497 (100.0)
A 精神障害の疑い	40 (17.6)	37 (13.7)	77 (15.5)
B 精神障害治療上の問題	8 (3.5)	34 (12.6)	42 (8.5)
C 精神障害リハビリテーション	85 (37.4)	50 (18.5)	135 (27.2)
D 育児の問題	1 (0.4)	1 (0.4)	2 (0.4)
E 学校における問題	46 (20.3)	46 (17.0)	92 (18.5)
F 職場における問題	4 (1.8)	17 (6.3)	21 (4.2)
G 家庭における問題	21 (9.3)	34 (12.6)	55 (11.1)
H 嗜癖・中毒	13 (5.7)	8 (3.0)	21 (4.2)
I その他の問題行動	2 (0.9)	5 (1.9)	7 (1.4)
J 性についての問題	7 (3.1)	29 (10.7)	36 (7.2)
K 身体的問題		6 (2.2)	6 (1.2)
L 知的発育上の問題			
M 遺伝の問題			
N 宗教の問題			
O その他		3 (1.1)	3 (0.6)

表10 老年期相談内容別件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総件数	13 (100.0)	34 (100.0)	47 (100.0)
A 精神障害の疑い	1 (7.7)	8 (23.6)	9 (19.1)
B 精神障害治療上の問題	1 (7.7)	8 (23.6)	9 (19.1)
C 精神障害リハビリテーション	3 (23.1)	1 (2.9)	4 (8.5)
F 職場における問題		1 (2.9)	1 (2.1)
G 家庭における問題	7 (53.8)	10 (29.4)	17 (36.2)
H 嗜癖・中毒		2 (5.9)	2 (4.3)
I その他の問題行動		1 (2.9)	1 (2.1)
K 身体的問題	1 (7.7)	1 (2.9)	2 (4.3)
O その他		2 (5.9)	2 (4.3)

表11 酒害相談者別件数

相談者	件数
本人	2
家族	2
その他	2
計	6

Ⅲ．こころの健康センター図書目録

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤喬一訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤学共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋薫編	星和書店
4	アルコール症（J. フォート著）	大森正英訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元波留夫著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井孝幸著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島美都子著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾実著	岩波書店
9	狼に育てられた子（J. A. Lジング著）	中野善達訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合隼雄著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合隼雄著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下格著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井末春著	新興医学出版社
14	健康と福祉（厚生行政百問百答）	厚生省監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析　1	小比木啓吾著	誠信書房
16	現代精神分析　2	小比木啓吾著	誠信書房
17	講座　家族精神医学　1	加藤正明共編	弘文堂
18	講座　家族精神医学　2	加藤正明共編	弘文堂
19	講座　家族精神医学　3	加藤正明共編	弘文堂
20	講座　家族精神医学　4	加藤正明共編	弘文堂
21	講座　日本の老人　1　老人の精神医学と心理学	金子仁郎共編	垣内出版
22	講座　日本の老人　2　老人の福祉と社会保障	岡村重雄共編	垣内出版
23	講座　日本の老人　3　老人と家族の社会学	那須宗一共編	垣内出版
24	行動と脳	今村護郎著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木隆郎監訳	ルガール社
26	自己と他者（R. D レイン著）	志貴春彦共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本和雄共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤正明共訳	医学書院

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際　1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際　2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際　3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際　4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ　6　小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ　7　登校拒否症	若林真一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ　8　小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ　13　小児の糖尿病	田中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ　14　自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ　15　小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ　20　夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	パオパブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版　精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院
59	精神衛生のための１００か条	中沢正夫 著	創造出版

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科　MOOK　3　覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科　MOOK　4　境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科　MOOK　6　思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科　MOOK　8　老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー　I　精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー　II　精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー　III　フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー　V　発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年　1（上）中高年健康管理学	簇野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年　1（下）中高年健康管理学	簇野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年　2　中高年女性学	簇野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年　3　収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年　4　老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年　5　中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
90	日本の中高年　6　病める老人を地域でみる	前田信雄　著	垣内出版
91	ニュー　セックス　セラピー	野末源一　訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二　編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子　著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄　共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二　訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田勉　訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎　著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎　編	中央法規出版
99	森田正馬全集　1	森田正馬　著	白揚社
100	森田正馬全集　2	森田正馬　著	白揚社
101	森田正馬全集　3	森田正馬　著	白揚社
102	ユキの日記	笠原嘉　編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介　訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川中　共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦　共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子　編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治　著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫　共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田晋　著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久　編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫　編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士　著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫　著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝　監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
1	現代精神医学大系　1A　精神医学総論Ⅰ		中山書店
2	現代精神医学大系　1B1a　精神医学総論Ⅱa1		中山書店
3	現代精神医学大系　1B1b　精神医学総論Ⅱa2		中山書店
4	現代精神医学大系　1B2　精神医学総論Ⅱb		中山書店
5	現代精神医学大系　1C　精神医学総論Ⅲ		中山書店
6	現代精神医学大系　2A　精神疾患の成因Ⅰ		中山書店
7	現代精神医学大系　2B　精神疾患の成因Ⅱ		中山書店
8	現代精神医学大系　2C　精神疾患の成因Ⅲ		中山書店
9	現代精神医学大系　3A　精神症状学Ⅰ		中山書店
10	現代精神医学大系　3B　精神症状学Ⅱ		中山書店
11	現代精神医学大系　4A1　精神科診断学Ⅰa		中山書店
12	現代精神医学大系　4A2　精神科診断学Ⅰb		中山書店
13	現代精神医学大系　4B　精神科診断学Ⅱ		中山書店
14	現代精神医学大系　5A　精神科治療学Ⅰ		中山書店
15	現代精神医学大系　5B　精神科治療学Ⅱ		中山書店
16	現代精神医学大系　5C　精神科治療学Ⅲ		中山書店
17	現代精神医学大系　6A　精神症と心因反応Ⅰ		中山書店
18	現代精神医学大系　6B　精神症と心因反応Ⅱ		中山書店
19	現代精神医学大系　8　人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系　9A　躁うつ病Ⅰ		中山書店
21	現代精神医学大系　9B　躁うつ病Ⅱ		中山書店
22	現代精神医学大系　10A1　精神分裂病Ⅰa		中山書店
23	現代精神医学大系　10A2　精神分裂病Ⅰb		中山書店
24	現代精神医学大系　10B　精神分裂病Ⅱ		中山書店
25	現代精神医学大系　12　境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系　15A　薬物依存と中毒Ⅰ		中山書店
27	現代精神医学大系　15B　薬物依存と中毒Ⅱ		中山書店
28	現代精神医学大系　18　老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系　23A　社会精神医学と精神衛生Ⅰ		中山書店

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
30	現代精神医学大系　23B　社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系　23C　社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系　24　司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系　25　文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門（正続）	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレペリンの精神医学1巻　精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレペリンの精神医学2巻　躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレペリンの精神医学3巻　心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理　1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理　2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理　3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理　4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理　5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児（者）の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1．子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3．発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7．発達の保障と教育		岩波書店

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
60	分裂病の精神病理4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理　1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理　2	小比木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理　3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座　生活ストレスを考える　1．生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座　生活ストレスを考える　2．生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座　生活ストレスを考える　3．家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座　生活ストレスを考える　4．職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座　生活ストレスを考える　5．学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニークライン著作集1．子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニークライン著作集3．愛、罪そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニークライン著作集4．妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニークライン著作集6．児童分析の記録I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・山所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見　上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見　下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学　3巻　1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学　3巻　2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学　3巻　3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集　1　児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集　2　自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集　3　家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集　4　家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集　5　児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集　6　児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集　7　ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集　8　ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集　9　児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集　10　児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学　2　パーソナリテイ		岩波書店

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
90	異常心理学講座4巻　1　学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座　3　人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座　4　神経症と精神病1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座　5　神経症と精神病2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集　1精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集　2脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集　3分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・臺弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学　1巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学　2巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学　4治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学　5正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学　6心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学　7意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学　8境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学　10精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学　11脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学　12貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学　13「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること　かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的倒錯　（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱　（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
120	家族療法（ジェイ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法Ⅰ（Dグリック D・Rケスラー著）	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巌・荒井元博編	ミネルヴァ書房
126	日常性の精神医学（ヴァン・デン・ベルグ著）	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋條治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学（P・シルダー著）	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1　母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2　父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3　エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4　攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5　夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6　創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7　病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9　子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10　青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
150	日本人の深層分析11　老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー　生きられる時間　1	中江育生・清水誠　訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー　生きられる時間　2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー　精神分裂病	村上仁　訳	みすず書房
159	異常心理学講座　第9巻	十木健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレペリン〈精神医学〉2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修　加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編　ハンドブックグループワーク	馬場禮子　監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司　編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛　訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会 発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー　裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット　子どもと家庭	牛島定信　監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・藤沢千尋・黄信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子　編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンスインターナショナル
178	生活と福祉　別冊事例集　アルコール依存症および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
179	パトグラフィ双書3　宮沢賢治	福　島　章	金剛出版
180	パトグラフィ双書6　ドフトエフスキー	荻　野　恒　一	〃
181	パトグラフィ双書8　ヘミングウェイ	伊　藤　高　麗　夫	〃
182	パトグラフィ双書9　志賀直哉	鹿　野　達　男	〃
183	パトグラフィ双書10　川端康成	稲　村　博	〃
184	パトグラフィ双書12　高村光太郎	町　沢　静　夫	〃
185	精神科MOOK　2　家族精神医学	編集企画　西園　昌久	金原出版
186	〃　5　アルコール関連障害	〃　加藤　正明	〃
187	〃　9　精神分裂病の治療と予後	〃　山下　格	〃
188	〃　11　身体疾患と精神障害	〃　原田　憲一	〃
189	〃　12　対人恐怖症	〃　高橋　徹	〃
190	〃　13　躁うつ病の治療と予後	〃　更井　啓介	〃
191	〃　14　青少年の社会病理	〃　藤原　豪	〃
192	〃　15　精神療法の実際	〃　吉松　和哉	〃
193	〃　16　自殺	〃　春原　千秋	〃
194	〃　17　法と精神医療	〃　逸見　武光	〃
195	〃　18　家庭と学校の精神衛生	〃　山田　通夫	〃
196	〃　19　森田療法－理論と実際	〃　大原健士郎	〃
197	〃　20　精神科救急医療	〃　山崎　敏雄	〃
198	〃　21　睡眠の病態	〃　菱川　泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤　森　英　之　訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎　藤　学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西　園　昌　久	〃
202	非行の病理と治療	石　川　義　博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆　編	〃
205	分裂病と構造	小　出　浩　之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	〃 ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	〃
215	〃 ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	〃 ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	〃 ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤井克徳編	〃
218	〃 ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	〃 ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	〃 ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	〃 ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	〃 ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 Ⅰ 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 Ⅱ 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 Ⅲ 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 Ⅳ 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 Ⅴ イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃 2 私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃 3 描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H.S サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J.レフ C.ヴォーン著	三野善央、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望（青年期）	鑪幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ GR.パターソン	大渕憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田穣之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E.G ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財日本公衆衛生協会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外口玉子	医学書院
270	精神分裂病研究の進歩	藤縄昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石川元	未来社
272	初期分裂病	中安信夫	星和書店
273	自己愛と境界例　J.F　マスターソン著	富山幸佑、尾崎新　訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術　L.S.グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高木四郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木時雄	弘文堂
278	新版　精神衛生	小杉正太郎　編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会　編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加藤正明	創元社
281	ライフサイクル精神医学	西園昌久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー　1　ミリアム・エルソン編	伊藤洸　監訳	金剛出発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清水将之	金剛出版
285	ブロイラー精神医学総論	切替辰哉	中央洋書出版
286	生涯発達学　R.Mラーナー　N.Aブッシュ　ロスナガール編	上田礼子　訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一　編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川島書店
288	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
289	岩波講座　子どもの発達と教育4　幼年期発達段階と教育1		岩波書店
290	精神医学の臨床研究　サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	轟俊一、渡辺登	岩波書店
292	心理療法の諸原則　上　I.Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則　下　I.Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北山修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸田俊彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新曜社
297	分裂病の精神病理　16	土居健郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川洋三	三笠書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本　収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信　著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優　訳	金剛出版
304	無意識1　無意識へのプロレゴーメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2　無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3　神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4　無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5　無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル、パウル シュレーバー著	渡辺哲夫　訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち　シンシア, R, フェファー	高橋祥友　訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本　訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三　森田啓吾 横山桂子　著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾　渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ケ瀬康子　十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ケ瀬康子 仲村優一　北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄　著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子　杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑　尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎　長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング　B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	上居健郎　笠原嘉 宮本忠雄　木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集　1　分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	〃　2　治療	〃	〃
344	〃　3　社会・文化	〃	〃
345	〃　4　治療と治療関係	〃	〃
346	〃　5　病者と社会	〃	〃
347	〃　6　個人とその家族	〃	〃
348	〃　別巻1　中井久夫共著論文集	山中康裕編	〃
349	〃　別巻2　H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	〃
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康　①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	〃　②企業と中高年	〃	〃
353	〃　③企業と家族	〃	〃
354	〃　④企業と転勤	〃	〃
355	〃　⑤個人と性格	〃	〃
356	安永治著作集　1ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	〃　2ファントム空間論の発展	〃	〃
358	〃　3方法論と臨床概念	〃	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際　1	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際　2	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例　私の治療	融　道男　編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄　編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座　第十巻　文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・Wバートン　H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子　著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4　職場の病	河野友信　編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	萌文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹他	萌文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	〃　1992 Vo3 No1	〃	〃
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系　①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	〃　②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	〃
381	〃　③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	〃
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦　編	金剛出版
383	安永浩著作集　症状論と精神療法	安永浩	〃
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄　編	相川書房
385	臨床心理学大系4　家族と社会	岡堂哲雄、鑪幹八郎 馬場禮子　編集	金子書房
386	〃　5　人格の理解1	安香宏、田中富士夫 福島章　編集	〃
387	〃　6　〃　2	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏　編集	〃
388	〃　7　心理療法1	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章　編集	〃
389	〃　8　〃　2	上里一郎、鑪幹八郎 前田重治　編集	〃

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
390	臨床心理学大系 9　心理療法③	河合隼雄、水島恵一 村瀬孝雄　編集	金子書房
391	〃　10　適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之 安香　宏　編集	〃
392	〃　11　精神障害の心理臨床	福島　章、村瀬孝雄 山中康裕　編集	〃
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病Ⅰ－精神病理－	木村　敏　責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一　編	星和書店
395	〃　③	中井久夫	〃
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美　監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ　サラリーマン・アパシー	延島信也　編	同朋舎
398	〃　働く女性のメンタルヘルス	馬場房子　編	〃
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	萌文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレペリン　著 伊達　徹　訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集　5　昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	〃　6　子どもの宇宙	〃	〃
405	〃　13　生きることと死ぬこと	〃	〃
406	地域精神保健実践シリーズ②　保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹　ほか著	萌文社
407	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
408	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
409	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
410	Stress testing Edition 3	F.A,Davis.	M.H.ELLESTAD
411	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
412	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
社会精神医学	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル　ワーク研究	和川書房
季刊精神療法	金剛出版
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
精神医療	悠久書房
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論（Vol32 No1～4，Vol33 No1～4）	心理学評論刊行会
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
IYDP　情報	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会
BOX－916	ボックス　916
心理臨床	星和書店

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ　基本的かかわり技法　前編

〃　Ⅱ　〃　後編

老人ボケを防ぐには

社会人としての言葉使いの基本

作業療法　生活を拡げる治療と援助

老人と飲酒

アルコールと循環器

肝臓とアルコール代謝

あと一杯が飲めるか

与越市つくしの里の実践から
　地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する

こころの病をかかえて ── 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい　報道特集（1987年）

君は空の青さを知っているか ── 精神障害者が地域で生きていくために

〈精神保衛啓発用パネル〉

◦こころの健康づくりシリーズ（7枚）

こころの健康とは　　こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの病気にかかる人はどれくらい？　　こころの健康づくり

こころとからだ　　生活環境とストレス

ライフサイクルと心の病

◦社会復帰シリーズ（7枚）

社会復帰のための4要素　　共同作業所とは

ディケアとは　　家族会活動

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－1．制度－

〃　　－2．施設と活動－

◦（ライフサイクル）思春期シリーズ（5枚）

思春期のこころ　　思春期のからだ

親ばなれ　　子ばなれ

思春期の心の病のサイン

◦（ライフサイクル）老年期シリーズ（10枚）

老年期の心と体の特徴　　老年期の心の病（精神障害）

痴呆とは①　　痴呆とは②

仮性痴呆　　痴呆の予防

痴呆の介護①　　痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる　　健やかなる老後

平成5年度版　三重県こころの健康センター所報

平成6年9月　発行

三重県こころの健康センター
（三重県精神保健センター）

〒514－11 久居市明神町 2501－1
三重県久居庁舎1階
電話　0592－55－2151